

- 愛知縣聯合會 小泉 七造 兵庫縣聯合會 金子 哭
- 中四聯合會 金光 平 九州聯合會 伊藤 卯四郎
- 神奈川聯合會 土井 直作 東京聯合會 仲濱 藤次
- 製網労働組合 三木 治朗 關東労働同盟會 齋藤 健一
- 塚本 重藏 三木 治朗

政治部

吉川末次郎氏の祝辭が幾分誤解を招き易い點があつたので西尾氏の政治部の報告は特に詳細を極めた故にその要旨を左に掲げる

總同盟の無産政黨合同問題乃至戦線統一に對する方針は當初發表のものとも聊かも異なる。我々は合同問題に當面する度には實際合同が可能かを考へて慎重な態度を取つて来た。これが或は我々が合同に根本的に反對するものであるかの如き印象を與へたのかも知れない。云ふまでもなく戦線は整理されなければならない。しかしそれは一定の限界があるのである。即ち共産主義黨と社會主義黨の合同は不可能である。しかし我々が社會民衆黨を結成した當時日勞黨は社會民衆黨は偽無産政黨であると稱して脱退し盛んに單一無産政黨論を振擧げた。彼等は社會民衆黨は「ブチブル團體たる工人俱樂部の支持を受け、勤勞階級といふ言葉を使つて小市民を吸集して階級時色彩を曖昧にし、且つ黨指導者はインテリのみであつて、労働階級の支持が少い。だから偽無産政黨だ」と云ふのであつた。しかし乍ら今日では右翼中間左翼を問はず工人俱樂部の分子を含まない政黨がありや否や或はそれ以上の危険分子を含んでゐる政黨さへあるではないか。而も社會民衆黨はどの政黨にも増して労働階級の階級的的支持を受けてゐるではないか。このことは我々の主張が如何に正しいかを事實に證明されたのである。今日では當時我々の立場に反對した第三者や反對黨も社會民衆黨と同様になつてゐるではないか。

又我々は合同に熱がなないのではない。今年三月の合同問題の際に自分は總同盟の政治部長として社會民衆黨中央執行委員會に一つの提議をした。それは

- 一、當執行部の諸君は眞實に肚を定めて合同問題を考へてゐるや否や
- 二、眞に合同の熱意があるならば我等も亦賛成である
- 三、若しそれなら大衆黨の意志を聞くために之と談合協議すべし

といふのであつたが、この意見は採用された。このことに依つても我々は合同に根本から反對でないことは分るのである。

次に現在はどうかと云ふに、労働黨内の解消問題は結局解消派が勝利を占め、それは結局大衆黨にも影響するであらう。大衆黨は今尙社會主義か共産主義かの主張をはつきりしてゐない關係上、そして内部には左翼分子が多分に存在する關係上解消派の働きだけが極めて容易であると見られるので、將來は兎も角現在直ちに大衆黨と合同協議を進めることは慎重な考慮を要する事柄であつて之に對しては從來の方針を持する外ないと思つてゐる。

我々決して政治運動に熱がないのではないことは以上の如くであるが、こゝに注意すべきことは、今日我々は一つの轉換期に立つてゐるのではないかと思ふ。我々は労働運動の境内に歸りその範圍に於いて政治運動に携はりたいのである。

- 婦人部 三木 治朗 福岡 金次郎
- 調査部 重廣 虎雄 組織部 原 虎一
- 本部一般報告 松岡 胸吉

實(イ)政治部報告中の労働運動の境内の範圍及その見解 (ロ)先年の大會で決定せる行動綱領の作製されない理由

岩部 石男
西尾 政治部長
岩部 石男
西尾 政治部長
岩部 石男
西尾 政治部長